

**平成27・28年度  
川口市青少年問題協議会の  
報告と提案**

**～青年リーダーの育成と地域の  
関わり合いについて～**

**川口市青少年問題協議会**



## 次第

はじめに	1
青少年問題協議会の概要	2
1 現状と課題	3
(1) 背景と経緯	
(2) 子どもと地域の関わり	
(3) 川口市の意識と行動調査について	
(4) 青年リーダーの育成・確保の検討	
2 青年リーダー育成のための取り組み	8
(1) 取り組みの状況	
(2) 地域における青年の活動の場づくり	
モデルケース 南平公民館子どもクリスマス会	
青木中学校の夢わーく（職場体験学習）	
3 協議の経過と提案	16
[テーマ1] 青少年の中に「気づき」を生み、意識づくりに努めること	
[テーマ2] 青少年にさらなる活動の場を与え、意欲と主体性を育てること	
[テーマ3] 地域の大人が青少年を見守り、支え、次につなぐこと	
4 付録	26
川口市の中高生の意識と行動調査について	

## はじめに

2年間の「報告と提案」を、是非活かして

川口市青少年問題協議会 会長 栗原保

川口市では、従来から家庭・地域・学校が一体となって『大人が変われば子どもも変わる』というスローガンのもとに青少年健全育成活動を推進しています。

その中で当青少年問題協議会は、「青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき必要な重要事項を調査審議する」附属機関として設置され、27・28年度の2年をかけて「報告と提案（テーマ『地域における中高生への活躍を』）をまとめました。

15人の委員と事務局である青少年対策室が協議を重ね、テーマに基づき、若者を社会に参加・参画させるためには、どうすればいいか市民目線で具体例を出してきました。中高生の意識調査の実施やモデル案として「学校と企業が協力した体験の場作り」、「地区公民館・青少年育成協議会が共同した事業」を実施、検証も行いました。

これらを通して、大人が「してあげる」「やってあげる」といった“上から目線”のままでは、何も始まらないということに気がつきます。その姿勢こそ『大人が変われば子どもも変わる』につながり、子どもと大人の関係性が変わっていくことが重要です。子どもと大人が人格において平等であり、同時に、共にこの社会を築いていく「仲間」なんだという“パートナーシップ”の感覚こそ、時間はかかってもこの川口の地域に芽生えさせたいという気持ちが各委員の共通理解となってまとめることができました。

是非、この内容をご一読いただき、関係機関・団体、地域や家庭、企業関係者の皆さまと一緒に、青少年の健全育成につながることを願ってやみません。

## 川口市青少年問題協議会概要

設置根拠法令等	地方青少年問題協議会法・川口市青少年問題協議会条例		
設置年月日	昭和30年4月1日		
所掌事務	青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき必要な重要事項を調査審議すること。		
委員数・任期	15人・2年（任期：平成27年6月1日～平成29年5月31日）		
委員の氏名	氏名 ※敬称略	備 考	
	栗 原 保	大学講師	会長
	樋 田 信 行	公募市民	
	小 柳 美 佐 子	公募市民	
	立 花 彪	川口市少年軟式野球連盟	
	須 賀 眞 一	川口商工会議所青年部OB会	
	平 田 敦 子	川口市民生委員児童委員協議会	
	濱 端 和 也	川口市PTA連合会	※平成27年6月1日～平成28年6月19日
	船 津 由 徳		※平成28年6月19日～平成29年5月31日
	中 牟 田 雅 子	川口地区保護司会	
	姉 崎 祐 二	川口青年経済人連絡協議会	
	請 川 か お り	川口商工会議所女性会	
	谷 口 正 夫	中学校長会	副会長
	村 越 俊 文	川口警察署生活安全課	※平成27年6月1日～平成28年3月25日
	川 島 将 宏		※平成28年3月25日～平成29年3月24日
	七 五 三 野 孝 之		※平成29年3月24日～平成29年5月31日
	武 井 祥 志	武南警察署生活安全課	※平成27年6月1日～平成28年10月17日
	新 木 孝 一		※平成28年10月17日～平成29年5月31日
若 谷 正 巳	川口市議会議員		
芝 崎 正 太	川口市議会議員		
会議日程	～ 平成27年度 ～ 平成27年6月30日（火）、平成27年11月17日（火） ～ 平成28年度 ～ 平成28年7月22日（金）、平成28年11月29日（火）、平成29年3月10日（金）		

# 1. 現状と課題

青少年の成長にとって地域でのボランティアをはじめとする体験活動は効果があるとされていますが、若い指導者の確保が難しいという現状があります。青少年問題協議会では、地域における青年リーダーの育成をテーマに設定し、現状把握のための調査の実施や取り組みの検討等を行いました。

## (1) 背景と経緯

### ○青少年における体験活動の意義と効果

体験活動は教育的効果が高く、幼少期から青年期まで多くの人とかかわりながら体験を積み重ねることにより、「社会を生き抜く力」として必要となる基礎的な能力を養うという効果があり、社会で求められるコミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、想像力、変化に対応する力、異なる他者と協働したりする能力等を育むためには、様々な体験活動が不可欠であるとされている。青少年対策室では、青少年の体験活動をとして、毎年各事業を実施している。

#### ・ 青少年対策室主催事業



子ども自然体験村（8月）



通学合宿（10月）

#### ・ 川口市青少年団体連絡協議会主催事業



青少年まつり（6月）



戸田・蕨・川口三市青少年の船（3月）

### ○ボランティアスタッフの減少

青少年対策室が主催する各種事業の実施にあたっては、キャンプリーダーや生活指導者等、ボランティアの運営スタッフの存在が不可欠であるが、近年、その確保が難しくなっている。従前は、埼玉県委嘱する青少年相談員が、その一翼を担っていたが、年々減少し、平成26年度において、本市における青少年相談員は1名のみとなっている。

○川口市青少年相談員登録者数及び実施事業数の推移

	H22	H23	H24	H25	H26
登録者数	5人	5人	5人	2人	2人
実施事業	4回	0回	1回	5回	0回


○青少年団体の若手指導者の欠如

市内で活動する青少年団体においては、指導者層の高齢化が進み、若手の指導者が育っていない状況がみられる。また、平成26年度に実施した、「青少年指導者養成講習会」の参加者からは、青少年団体の抱える問題として、「次世代の担い手がない」との声が多く寄せられた。

○若い世代の経験不足

戸田・蕨・川口三市青少年団体連絡会の主催する「三市青少年の船」事業に、班長や専門部員として参加した高校生から大学生の青年ボランティアからは、「子どもたちを指導するにあたり、経験を積み、スキルを高めたい」との声が聞かれた。

(2) 地域と子どもとの関わり

		小学生	中学生	高校生	大学生	社会人
地域との関わり	団体活動	子ども会 ボーイスカウト ガールスカウト 少年野球 サッカー少年団 柔道、空手 など	ジュニアリーダー ボーイスカウト ガールスカウト  	ジュニアリーダー ボーイスカウト ガールスカウト	ジュニアリーダー ボーイスカウト ガールスカウト	ジュニアリーダー ボーイスカウト ガールスカウト
	体験活動	三市青少年の船 青少年まつり 子ども自然体験村 通学合宿		体験事業の指導者として参加	体験事業の指導者として参加	体験事業の指導者として参加
現状と課題		<p>(現状) 小学校まではスポーツ少年団や子ども会の活動等、日常的に地域と関わっていた子どもが中学生になると、地域との関わりが極端に薄くなっている。</p> <p>(課題) 小、中、高、大学生、社会人という縦の繋がりが途切れないような仕組み作りが必要。</p>				



### (3) 川口市の中高生の意識と行動調査について

#### ◆調査の目的

本協議会の議題としている青年ボランティアの育成や地域と青少年の関わり等に関して、川口市の中高生の意識と行動を把握する。

#### ◆調査の対象

①市立中学校に在学する中学3年生（10校）

※参考 市立高校に在学する高校生

※参考 青年ボランティア養成講習会受講者（中学生・高校生以上）

比較対象とする調査：平成23年度埼玉の中高生の意識と行動調査

#### ◆調査結果

##### 市立中学に通う中学生の特徴

##### 【地域への愛着度】

地域が好きという回答が多いが、次に多い回答は、「何とも思わない」であり、地域に対する無関心や関係性の希薄さがうかがえる。

##### 【近所の人へのあいさつ】

日常的にあいさつをしているとの回答が多い。中学生の多くが、近所の人（大人）を認識し、自発的にコミュニケーションをとることができていることがわかる。

##### 【家族以外の人からしかられること】

7校が「しかられない」、3校が「しかられたことがある」の割合が多くなっている。

##### 【地域活動等への参加状況】

「地域のお祭り」への参加が最も多く、次いで、「電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる」が多い。地域のお祭りは、関わりが薄いとみられる中学生と地域との貴重な接点であり、活用すべき場であるともいえる。

##### 【参加してみたいボランティア活動】

5校が「環境・自然保護に関する活動」、4校が「スポーツ・文化に関する活動」の割合が多い。「青少年健全育成に関する活動」に関しては、ほとんどの学校で最も低い割合を示している。

#### ○埼玉県の中学生・青年ボランティア養成講習会受講者の中学生との比較

- ・地域への愛着度について「何とも思わない」に関しては、埼玉県より11.7ポイント高い結果となっている。
- ・地域貢献活動への参加状況について「電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる」という回答については、埼玉県より21.7ポイント高くなっている。

## ※参考

### 市立高校に通う高校生、埼玉県の高中生、青年ボランティア養成講習会受講者の高校生以上の比較

- ・地域への愛着度について「何とも思わない」の割合は、講習会参加者では少ない。
- ・地域活動等への参加状況については、埼玉県は「地域のお祭り」への参加が最も多いが、高校生では「募金、献血」、講習会では「地域の子どもたちの指導や世話」「電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる」が最も多くなっている。
- ・参加したことがあるボランティア活動については、埼玉県と高校生では、全体の約半数が、ボランティア活動未経験と答えているが、講習会では、青年ボランティア養成講習会の内容である「青少年健全育成に関する活動」が最も多い結果となった。
- ・どのような気持ちからのボランティア活動への興味かについては、埼玉県と比べ、高校生や講習会参加者は、自分自身の成長のためにボランティア活動を行いたいという心情的な傾向があることがうかがえる。

## (4) 青年リーダーの育成・確保の検討

若手指導者の不足や、経験不足をどのように解消すれば良いか、平成26年度から検討会を実施（川口市青少年団体連絡協議会、青少年相談員OB、青少年対策室）。

検討会において、若手指導者となる人材（青年リーダー）を募集すること、集まった人達の活動の場として、具体的な事業を実施することが必要であるという意見があり、また、青少年対策室には、若手指導者の募集に関する広報（広報かわぐち、ホームページによるPR）、若手指導者の市や青少年団体の事業への参加（青少年まつり、通学合宿等の指導者として）について協力してもらいたいという意見があった。

このことから、青少年対策室では、若手指導者の養成と実践の機会を提供する事業として平成27年度から検討会に参加している青少年相談員OBの方々を講師として「地域の子どもたちのための青年ボランティア養成講習会」事業を実施することとなる。

## 2. 青年リーダー育成のための 取り組み

青少年問題協議会での意見をもとに、青年ボランティア養成講習会の実施や、地域における青年リーダーの新たな活動の場づくりの取り組みを行いました。

## (1) 取り組みの状況

### 青年ボランティア養成講習会の開催

平成27年度

- 1 趣 旨 青少年の健全な育成に必要とされる体験活動において運営・指導にあたる次代を担うリーダー（青年ボランティア）を養成し、地域における青少年活動の活性化や新たな人材の確保につなげる。
- 2 主 催 川口市青少年保護育成本部
- 3 共 催 川口市青少年団体連絡協議会 青少年会館
- 4 講習内容

日 程	時 間	講 習 内 容	会 場
5月10日(日)	13:30 ～	開講式、ワークショップ (リーダーの役割・心構え、 子どもたちへのかかわり方)	青少年会館
5月24日(日)	16:30	イベントで使える レクリエーション&クラフト	
6月7日(日)	8:00～17:00	青少年まつり参加 ～何か手伝ってみよう!～	グリーン センター
6月14日(日)	13:30～16:30	体験活動における リスクマネジメント	婦人会館
7月5日(日)	13:30 ～16:30	子ども対象イベントの企画 (川口市「七つの祝い」 ブース運営実施にむけて)	青少年会館
9月6日(日)		子ども対象イベントの実施準備 (川口市「七つの祝い」 ブース運営実施にむけて)	
10月12日(月)	8:00～17:00	子ども対象イベントの実施 (川口市「七つの祝い」 ブース運営)	グリーン センター
11月1日(日)	13:30～16:30	「七つの祝い」のふりかえり これからの活動について 閉講式	青少年会館

○講師・ファシリテーター：

元埼玉県青少年相談員

NPO 法人自然体験活動推進協議会安全委員会委員(6/14のみ)

- 5 受講対象：体験活動の企画運営や青少年の育成指導に興味のある  
15歳から30歳までのかた（平成27年4月1日時点）
- 6 参加人数：91名（延べ出席者数）

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	計
中学生	2	2	3	1	3	1	3	3	18
高校生	7	5	5	2	1	2	4	4	30
大学・ 専門学生	3	4	3	1	1	2	2	2	18
社会人	5	2	4	2	4	3	3	2	25
計	17	13	15	6	9	8	12	11	91



### 平成28年度

- 1 趣 旨 青少年の健全な育成に必要とされる体験活動を通じて、運営・指導にあたる次代を担うリーダー（青年ボランティア）を養成し、地域における青少年団体の活性化や自立化を図る。
- 2 目 的 参加者自らが事業を企画・運営し、イベントの企画運営方法や、子どもと一緒に遊ぶノウハウを学ぶ。また同時に、イベントを通して、同世代の新たな青年リーダーを確保・育成するもの。
- 3 主 催 川口市青少年保護育成本部
- 4 共 催 川口市青少年団体連絡協議会、川口市子ども会連絡協議会、川口市青少年相談員協議会

## 5 講習内容

日程	時間	講習内容	会場
6月5日(日)	9:00~ 16:00	青少年まつりでブース運営 ~青少年まつりで一緒に遊ぼう!~	グリーン センター
7月31日(日)	9:00~ 16:00	デイキャンプ ~一日キャンプを体験しよう!!~	新郷自然の森
10月10日(日)	9:00~ 12:00	川口市七つの祝い ~手形スタンプでもみじをつくろう!~	グリーン センター
12月11日(日)	9:00~ 12:30	クリスマス会 ~子ども達と一緒にクリスマス会!!~	南平公民館

※青少年対策室と青少年相談員、子ども会鳩ヶ谷地区ジュニアリーダーが集まり、  
月1回の打合せ会議を実施

## 6 参加者

イベント参加者 延べ58人

	青少年 まつり	デイ キャンプ	七つの 祝い	クリス マス会	計
中学生	6	3	1	9	19
高校生	8	1	3	1	13
大学・ 専門学生	5	1	1	2	9
社会人	5	4	4	4	17
計	24	9	9	16	58

打合せ会議 全14回 延べ110人



★青少年相談員協議会が関わるその他の事業★

- 平成 28 年 3 月 焼きいも会の実施（協力：ボーイスカウト、ガールスカウト）  
 平成 28 年 6 月 アウトドア料理基礎研修会  
 10 月 戸塚西公民館地区通学合宿への参加協力  
 （主催：川口市青少年対策室）  
 戦没者追悼式への参加（主催：川口市福祉総務課）  
 芝西公民館地区通学合宿への参加協力  
 （主催：川口市青少年対策室）  
 11 月 芝中央小学校バザー会場への参加協力  
 （主催：芝中央小学校 P T A）  
 平成 29 年 1 月 さいたま市里親応援の集い参加協力（主催：さいたま市）



○川口市青少年相談員登録者数及び実施事業数の推移

	H24	H25	H26	H27	H28
登録者数	5 人	2 人	2 人	1 人	6 人
実施事業	1 回	5 回	0 回	1 回	10 回

## (2) 地域における青少年の活動の場づくり

### ・南平公民館子どもクリスマス会

南平公民館地区青少年育成協議会が毎年12月に実施しているクリスマス会を、青年リーダーが企画運営すると同時に、地域の中学生等にもリーダーとしての参加を呼びかけ、地域と一体となって事業を実施したものの。

日 程：平成28年12月11日（日）  
時 間：10時～12時  
場 所：南平公民館  
主 催：南平公民館地区青少年育成協議会  
青年リーダー：青少年相談員、鳩ヶ谷地区ジュニアリーダー、元郷中学校  
参加人数：青年リーダー9名、中学生7名、小学生23名



#### 参加した青年リーダーの声

- ・初めての企画だったが、地域の中学生の力も借りてスムーズに進行でき、とても助かった。
- ・リーダー達と小学生だけでなく、地域の方も協力してくれたので、幅のある活動になった。このような輪を広げていきたい。
- ・初めての中学生も積極的に協力してくれて、とても盛り上がった。

#### 参加した中学生たちの声

○地域でボランティアを体験して

- ・同年代とかかわりだけでなく、少し下の子とのかかわりを持つことで違う楽しさを実感できた。
- ・地域のイベントに参加していた子どもが多かった。
- ・普段は大人数の子どもと接することがなかったので緊張したけどとても接しやすく楽しかった。
- ・スノードームの作り方を教えてあげたらみんながすごく喜んでくれた。
- ・子どもと触れ合って楽しむことができた。
- ・小学生が楽しそうにしてくれた。
- ・みんなとてもフレンドリーにすぐに仲良くなれることができた。
- ・みんなとてもかわいかった。



### ○地域への愛着と今後の活動への意欲

- ・近所の子に親近感を抱けるようになった。
- ・妹の友達に仲良くすることができた。
- ・元々小さな子が好きだったけど、今まで以上に小さい子のことを考えて接せるようになった。
- ・小さい子に対して接し方が変わった。
- ・幼稚園実習でも生かすことができた。
- ・都合が合えばまた参加したい。
- ・このような機会は頼まれたらなんでも協力したい。

### 【事業を通じて見えてきたこと】

#### ・青年リーダーの成長

イベント自体の企画運営は、青年リーダーだけで実施できるようになるなど、2年間の青年ボランティア養成講習会の経験を通じた成長が見られた。今後も青年リーダーを中心に様々な事業の実施が期待できる。

#### ・中学生の力

青年リーダーが少しサポートをすることで、初めての中学生も抵抗なく、事業に関わることができていた。参加した中学生からも、地域や今後の活動に対して肯定的な意見が出された。今後も地域で事業を実施する際は、地元の中学校、高校などに積極的に呼びかけることで、中高生が地域と関わるきっかけができる。

#### ・青年を支える地域の力

今回は青少年育成協議会会長にサンタクロース役を担っていただくことで、地域の様々な世代が関わる事業として、より一層意義のあるものとなった。参加者である小学生や青年リーダーだけでなく、幅広い世代が関わることは事業の充実には非常に重要なことである。また、「地域の子どもは地域で守り育てる」という観点からも、育成協議会や青少年育成推進員をはじめとした団体や個人には地域の子どもや青年リーダーを育成する事業の中心となってもらうことが望ましい。

#### ・公民館の持つ機能

今回の事業は育成協議会の事業で公民館と青少年対策室が協力して、青年リーダーへの呼びかけや、中学校へ参加の依頼等連絡調整をした。地域の人を一番よく知り、密接な関係性を持つ公民館がコーディネーター役となり、地域の大人や青年リーダーを、各事業を通じてつないでいくことで、地域が一体となった青少年健全育成活動が実現できると考えられる。

## ・青木中学校における夢わーく（職場体験学習）

青少年問題協議会の中で、委員より中学生の地場産業体験の実施の提案がなされ、それを受け、別の委員を含めて青木中学校長と調整し、平成29年2月に実施したもの。

実施事業所名：姉崎興業株式会社

実施内容：安全柵の設置と安全設備の設置



### 参加した中学生の声

- ・強風が吹く中での安全柵の設置作業の寒さが大変だった。
- ・作業途中で後ろを見たときの自分のやってきた成果や距離を見たときに喜びややりがいを感じた。
- ・安全に気をつけて設備を設置していることがよく分かった。
- ・普段はやらない、教えてもらえないようなことをやれ、貴重な体験ができた。仕事は大変だが、その中でもやりがいを感じられた。

### 青木中学校の先生の声

- ・普段とは違った環境で、また大人に囲まれながら働くことを体験することというのは、将来子ども達が、今回体験した職種に就かなかつたにせよ、忘れられない経験になったのではないかと思います。

### 受け入れた会社の声

- ・冬季の強風が吹きつける屋外での作業だったため、生徒さんは大変だったと思う。2日目の午後は、建設重機を実際に操り、いくらかは楽しめたのではないかと思います。今回の体験を通して、仕事というのは楽しいことばかりだけではなく、つらいこともやるからこそ、報酬を得られるということを学んでくれればよいと思う。

### 3. 3つの提案と協議内容

2年に渡る会議での委員の意見から3つのテーマからなる提案としてまとめました。

## [テーマ1] 青少年の中に「気づき」を生み、意識づくりに努めること

**提案** 青年リーダーの育成のためには、学校の部活動、町会・自治会や青少年団体の活動等を通して、青少年（特に中高生）に社会参加の機会を与え、動機づけを促すことが必要ではないか。

### ◆学校と地域の連携による社会参加活動の充実

#### 青少年への意識づくり

##### <会議での主な意見>

- ・体験活動や挨拶をすることで、子どもたちが育っていくことは、間違いない。
- ・「埼玉県青少年の意識と行動調査」によると、子どもと関わるボランティア活動に意欲的な中学生は少ないが、福祉や環境、キャリア支援等の様々な活動を経験した後、子どもと関わるボランティアへ向かうことは十分考えられる。
- ・受験期とはいえ、勉強に集中しきれない中学3年生もいる。子どもと一緒に遊んで自分も楽しく、さらに、地域のためになるボランティア活動の成果を自分の経験値として結びつけられるという気持ちは、結構高い。

#### 部活動と協力して活動のきっかけに

##### <会議での主な意見>

- ・子ども会では、ジュニアリーダーの素養のある子に、小学校卒業の2年程前から声をかけていた。高校生になると、アルバイトを優先し、活動できなくなる子が多いが、中学校にジュニアリーダーの部活動があれば、色々な子が育つ。
- ・小学生の頃、スポーツ団体でやっていた種目を中学校へ行っても部活動で続ける子が多く、放課後等に、自分が所属していたチームの練習に入って、後輩を指導してくれる子もいる。

#### 地元企業での職場体験を通じた社会との関わり

##### <会議での主な意見>

- ・青少年に地元の企業を見学してもらい、どんな仕事をやっているのか興味を持ってもらうという関わり方もある。
- ・建設現場での中学生の職場体験は前例はないと思うが、多くの地元企業で若い人材が不足している。将来的な基礎を作る観点から、良い提案だと感じる。
- ・キャリア支援教育の観点から、建設現場に青少年を受け入れることには、大きな意味がある。

## ◆アプローチ方法の検討

### 広報活動の必要性

#### <会議での主な意見>

- ・青年ボランティア養成講習会については、さらに積極的な周知が必要。子ども会の横のつながりで呼びかけてもらうこともできる。
- ・忙しい子ども達には、まず、青年リーダーのボランティアとはどういうものかを理解してもらわないと、参加したいとはならない。養成講習会を知らない子がいないくらいの周知が必要。
- ・活動内容を知ってもらうには、チラシやリーフレットによる情報発信だけでなく、「こんなことをやっている」「ここが素晴らしい」と語れる人物が必要。

### 様々な形での情報発信方法

#### <会議での主な意見>

- ・小・中学校でのボランティアの案内が、町会の回覧板でまわることがある。大人が案内を受け取れば、子どもにやらせてみようということになる。
- ・今後の課題は、周知方法。これまで以上に、行政側が発信することで、川口市が若手ボランティアを育成しているということが認識される。LINEの活用など、様々な形の発信を検討してもよいのでは。

### 活動中の成果のPR活動の方法

#### <会議での主な意見>

- ・青年リーダーが参加した11月のPTAのバザー会場では、せっかくの青年リーダーの存在が、第三者からはほとんど分からなかった。もっと積極的にアピールすべき。
- ・七つの祝い会場内のブースで、楽しそうに活動している若者達が、青年ボランティアとはわからなかった。名札や広報で工夫し、PRすることで、彼らが意欲や誇りをもって活動できる居場所になる。
- ・チラシ等の周知も大切だが、目で見て、触れて、体験させることが重要。

### 小学校入学前の保護者に対するPR活動

#### <会議での主な意見>

- ・入学説明会の際、主任児童委員や学校応援団の活動について保護者に説明した経験がある。懇談会等の機会に話をすることもできる。
- ・毎年10月頃、来年度小学校に入学する子どもを対象にした健康診断があるが、その際に、保護者あてに約1時間の学習会を実施している市がある。

## ◆ボランティア教育と保護者の理解

### 学校のボランティア教育・学習

#### <会議での主な意見>

- ・授業等で、子ども達がボランティアに触れる機会を増やし、ボランティアが何なのかわかるようにすれば、もっと興味を持たれるではないか。
- ・無償・有償に関わらず様々なボランティア活動があるが、教育的な側面では「人の役に立ちましょう」ということであり、環境教育であれば「ゴミ拾いをしましょう」等、ボランティアを広く捉えて考える必要がある。どこまでがボランティアかという線引きは難しいが、学校では、校庭の清掃や福祉施設の慰問などを授業の中で行っている。

### 地域での活動を通したボランティア教育

#### <会議での主な意見>

- ・ジュニアリーダーが活動が続けていくためには、保護者の理解を得ることが難しい。例えば、子どもはジュニアリーダーの活動を楽しみにしていても、保護者は、受験や将来のことを考えている。まずは、リーダーがどういうものなのか、保護者にわかってもらう必要がある。
- ・子ども会では、ジュニアリーダーがキャンプの引率等を行うことがあるが、活動を知らない保護者は、「この子達についていって大丈夫なのか」と心配するため、日頃から、ジュニアリーダーをアピールするようにしている。リーダーには、常に保護者からどのように見られているのか、気をつけるように指導し、この子達に安心して任せられるということを周囲に伝えていくことが必要。

### 活動に対する保護者の理解

#### <会議での主な意見>

- ・生徒を校外のボランティア活動に参加させる場合、保護者からは、移動時の負担についての意見や、勉強させたいのになぜ呼ぶのかという意見を寄せられることがある。事前説明をしっかりと行い、保護者・生徒ともに、十分に納得してもらうことが必要。
- ・昔は、町会の集まりにも、子連れで参加していた状況があり、子どもは地域と関わるのは当然と思っていた。
- ・保護者の意識改革の最大のチャンスは、幼稚園入園時や、小・中学校入学時である。子どものためなら、自分もやらなくては行けないと、どんな保護者にも思ってもらえる。

## [テーマ2] 青少年にさらなる活動の場を与え、意欲と主体性を育てること

**提案** 様々な青少年が、良質な体験や経験を重ね、意欲や主体性を持って成長できるような活動の場を創出するためには、学校や地域、行政、青少年団体等の関わり方や、事業の実施方法を見直すことが必要ではないか。

### ◆学校・PTA・地域との協力体制づくり

#### バザーやスクールキャンプなどへの参加

＜会議での主な意見＞

- ・学校のバザーに青年リーダーのブースを出したり、スクールキャンプやワンデイキャンプを行っている学校と協力して開催することで、青年リーダーはどういうものかが伝わる。
- ・ある町会のラジオ体操では、中学生が、お手本として前に並んで体操をしているが、こういうことも、活動のきっかけとなり得る。

#### 小学校・中学校・高校との連携協力

＜会議での主な意見＞

- ・中学生が小学校に行き、近隣の掃除を一緒にするなど、兄弟校の様な関係が作られている地域がある。このような取り組みを授業の一環として行うことにより、一緒に活動することが普通とってもらうことも大事。
- ・災害発生時など、地域の中で一番力になるのは、中学生である。中学校と小学校の繋がりや、中学生と地域との繋がりから、青年リーダーのボランティアというものを自然に考えられるようになるのではないか。
- ・青年リーダー募集のチラシ作成を学校の美術部やパソコン部にお願いすれば、素敵な物ができるし、自分が作った作品なら、見に来る可能性もある。青年リーダーのPRビデオを高校生に撮ってもらってもよい。活動の様子をビジュアルで訴えることは、効果的である。
- ・市のイベント等に生徒の参加を促すことは、安全面等で学校側にも責任が生じるが、それでも生徒を参加させたいと思わせるため、我々委員や地域の大人が介在していくことが、地域で子どもを育てるということには必要である。

#### PTAとの連携

＜会議での主な意見＞

- ・PTA連合会の会議の際に、青少年相談員のブース運営の話をしてみてはどうか。PTA連合会の会長も本協議会の委員であり、バザーや模擬店の出店等の提案を通じて、宣伝を行うこともできるのではないか。

## ◆地域における体験事業の充実

<会議での主な意見>

- ・市主催の通学合宿は、公民館地区単位での実施のため、別の学校の子と仲良くなれるのは良いことだが、学校単位で、知っている子同士で実施することにも意味があるのではないか。
- ・通学合宿の生活指導者の人材確保が課題とのことだが、内容を提示しながら探せば、1時間でも2時間でも参加できるという人はいるのでは。各指導者の人的なネットワークも、さらなる人材確保につながると思う。
- ・青少年育成協議会の活動状況には地域差があるため、イベント等の会場となる公民館が決まった時点で運営審議会にかけ、実施方法等について議論してもらうのも一つの方法である。
- ・あまり知られていなくても、地域で活発に活動している団体は多い。そういう団体と連携することで、若手の育成がより活性化するのではないか。

## ◆様々な環境にある青少年への働きかけの検討

<会議での主な意見>

- ・川口市は、全国でも有数の外国人が多く住む都市である。川口に住む外国人も取り込んで、青少年健全育成に取り組んでもらいたい。
- ・職場体験というのは、受け入れる企業としては負担となる面もあるが、青少年にとって良い社会経験の場となる。特に、非行少年にとって、そういった社会経験をさせることは必要と考える。
- ・保護司会では、社会的に認められていない人達に、ボランティア活動を通して達成感を持たせる取り組みがある。青年ボランティア養成講習会のアンケート結果では、企画から携わって実践したことが良かったとあることから、企画から取り組むことにより、達成感を得られ、次に繋がるのではと感じた。



### [テーマ3] 地域の大人が青少年を見守り、支え、次につなぐこと

**提案** 学校や地域、行政、青少年団体等の積極的な連携など、大人同士の関わりがよりよく変化することが、地域における青少年の健全育成や、次代を担う青年リーダーの育成にとって必要ではないか。

#### ◆家庭・学校・地域の連携強化

##### 地域と学校との関わり

<会議での主な意見>

- ・学校が、地域との関わりについてどのように考えているか情報を公開していけば、様々な活動について地域と話し合うことができる。
- ・PTAなどの活動は、自分の子どもが卒業してしまうと、学校と関わりづらくなり、継続されていかない。中学校によっては、教育後援会という組織があり、卒業生の保護者も関われる仕組みがある。
- ・おやじの会の主催で、スクールキャンプを実施している地区がある。
- ・学校同士は上手く連携がとれているが、学校と行政は、もっと積極的に連携を取っていく必要がある。
- ・ある学校が荒れていた頃、校長先生が正義感に燃えて、生徒を盆踊り等地域の行事に手伝いとして参加させた。今では、この学校は、地域との関わりで表彰されたりしている。
- ・学校の周年事業に「お金を使ってください」という申し出るほど、関心が高い町会があるが、学校とどう関わっていけばよいかわからず、町会の方が気を使っているように感じる。

##### 地域性の特性の活かし方

<会議での主な意見>

- ・川口市では地域性がかなり違う。地元で働く保護者が少ない地域では、学校応援団等の活性化が難しいところもあるが、学校応援団を上手に作っている校長というのは一言で言うと甘え上手である。行事の際にも上手く学校応援団を活用している。
- ・育成協議会や子ども会の活動が低迷しているところがあるなど、地域によって状況が異なるため、地域別戦略を考える必要があると感じる。市全体で同じマニュアルに当てはめるのは難しい。

##### 多様な団体との連携

<会議での主な意見>

- ・前川の公園では、プレイリーダーが昔遊びを行っており、その中に若者が何人かいたが、そういう団体と連携してはどうか。

- ・主任児童委員は、学校や地域と連携する場合など、子どもに関する情報を多く持っている人が入った方が良いということで、存在している。学校応援団やコーディネーターもおり、地域と学校に関わる方の見守る目が多い方が良く、広い視野で見ることができる方が良い。

#### 学校と地域との話し合いの場づくり

##### <会議での主な意見>

- ・地域と学校の話し合いの場を作り、互いにできることを出し合うのはどうか。新しい部活活動を作ったり、地域と関わる組織を新たに作るよりも、まずは、地域と学校との話し合いである。
- ・学校評議委員の会議は、学期に1度は開催されている。町会・自治会長が参加する場合もあり、地域と学校が関わる提案や調整の場にもなる。
- ・学校側から地域に積極的に働きかけるべきである。学校長が、積極的に地域に関わりなさいとあって、町会の運動会にも多くの先生が参加している例もある。「地域の皆さんで子ども達を見守ってください」という学校側の発信力の強さが、地域を動かす。

### ◆あいさつは大人から

#### 大人の意識を変える

##### <会議での主な意見>

- ・大人が変われば、子どもも変わるということは、一貫して言える。
- ・保護者の立場、見方に立って、リーダー養成をしていく必要もある。だからこそ、支える体制が必要である。
- ・リーダーは育っていると思う。川口市は部活動が盛んであり、そういう子がリーダーになれば、何とかできる。大人はもっと子どもに任せてもよいのではないか。
- ・リーダー育成事業をなぜやるのかと考えることは、地域における大人のあり方を考えることにつながる。何をやって青少年を育成していくのか、という原点に立ち返り、考えることが重要だ。
- ・スポーツの団体では指導者が熱くなりすぎて、体罰や暴言を吐いて、父兄が真似をして問題になることがある。スポーツ少年団には倫理委員会というものがあり、種目別に父兄を集めて、倫理についての講習を少しずつやっという形で、大人の方が倫理を一生懸命勉強しながら指導している状況である。

#### 保護者のあいさつ

##### <会議での主な意見>

- ・あいさつ運動について言えば、まず、大人同士がもっと挨拶をするということが大切だ。それを見て子どもは挨拶するようになる。

- ・スポーツ少年団の小学生は、各団の指導者が挨拶を指導しており、徹底されている。更に、父兄も自発的に挨拶をするようになれば大人同士も交流が広がる。大人が挨拶をすれば、子どもも中学生になっても、挨拶をする。
- ・親と子どものコミュニケーションも不足しているように感じる。まずは、親子でコミュニケーションを図っていかなければ、その先はないのではないか。

#### 子どもへのあいさつの働きかけ

##### <会議での主な意見>

- ・スクールガードとして、ビブスをつけて通学路に立てば子どもたちも挨拶するが、普段の格好で挨拶をすると、子どもたちはほとんど挨拶しない。知っている人には挨拶するが、知らない人には挨拶しない。知らない人にはついていってはいけないという指導もあるが、そこにギャップを感じている。
- ・ある講演会では「不審者には近づかないように」とはいうものの、やはり、学校では、「人にはやさしく、挨拶はしよう」と教えていただきたいということ話を話していた。挨拶は大事で、やるべきだと思うので、たとえ挨拶されなくても、声を掛けていくことが大人の使命だと思う。学校でも、指導していただけたら、根付いていく。

#### 大人が子どもと接する重要性～「褒めること」と「叱ること」

##### <会議での主な意見>

- ・青少年をもっと褒めてほしい。リーダーを育てるのは、上の人々の役目である。キャンプに参加した子が中学生になったら、指導者として参加してもらえばよい。失敗しても、責任は大人がとればよい。子どもたちには夢を与えたい。
- ・今の子どもたちをみていると、自分に自信がない子が多い。学校の部活動などは、自身を持たせる場として有効と考えられるが、指導者と子どもの関係だけではなく、地域に出て行くことによって、違った視点から子ども達が役割を与えられるということは、非常に大事なことであると思う。
- ・子ども達に対する色々な話を、各委員がそれぞれの場所に持ち帰り、「僕も頑張っているけど、君も頑張っているね」という形で、褒めるところをたくさん増やして欲しい。また私達には、他の方に伝えていくという役目もある。褒めるだけでなく、認めて、育て、それを見守っていくという流れを大切にしたい。
- ・「中高生の意識と行動調査」の質問に「よく叱られる」が34%とあるが、これは良いことだと思う。叱ってくれる大人がいるということは、褒めてくれる大人がいるということ。こういう地域は素晴らしいと感じる。叱る人は褒めてくれる。褒めて、叱ることで、リーダーは育っていく。

## ◆地域を主体とした育成組織

### 公民館（行政）の役割

#### <会議での主な意見>

- ・公民館で学校と連携した積極的な事業をということだが、地域の活性化が難しい中で、更に、防犯面から部外者の立ち入りを禁止するなど仰々しい時代であり、地域と学校との気軽な連携は簡単には難しい。そこを仲介するのは公民館ではないか。保護者は地域とのかかわりを持ちたがっているので、定期的なお祭りなどには、パイプ役として一番よいのではと感じる。ただ、立ち上げる人は、かなりエネルギーが必要であるし、誰か一人やってくれる人を期待するだけでは成り立たない。そこで、行政が音頭を取って関わってもらえると、地域全体で考えられることになると思う。
- ・公民館を事務局として、青少年育成協議会が組織され、青少年育成協議会には町会・自治会長や各種団体も入っている。そういう意味では、青少年育成協議会が、地域と学校をつなぐ役割を担っていけないのではないか。
- ・公民館の事業をボトムアップ式に新しい事業を入れていくという体制、新しい事業を提案できるような形にすればよいのではないか。

## 4. 付録

川口市の中高生の意識と行動調査

(平成28年4月実施)

# 川口市の中高生の意識と行動調査について

## 1 調査の概要

### ◆調査の目的

- ・本協議会の議題としている、青年ボランティアの育成や地域と青少年の関わり等に関して、川口市の中高生の意識と行動を把握し、今後の協議に活かすための基礎資料を得ることを目的とする。

### ◆調査の対象

- ①市立中学校に在学する中学3年生
  - ②市立高校に在学する高校生
  - ③青年ボランティア養成講習会受講者（中学生・高校生以上）
- ※地域との関わりが薄くなる中学生の意識と行動をみるため、①を主な対象とする。②及び③は、参考として調査。

### ◆対象校（対象者）

【中学校】 10地域各1校／3学年1クラス（計340人）

No.	中学校	地域	3学年1クラス 生徒数	※子ども会 中学生会員数
1	南中学校	中央	33人	3人
2	仲町中学校	横曽根	32人	15人
3	上青木中学校	青木	36人	15人
4	元郷中学校	南平	34人	0人
5	東中学校	新郷	38人	19人
6	神根中学校	神根	32人	84人
7	芝西中学校	芝	32人	80人
8	安行東中学校	安行	35人	23人
9	戸塚中学校	戸塚	36人	44人
10	里中学校	鳩ヶ谷	32人	14人

※1クラスの生徒数が同規模であることを前提に、子ども会の中学生会員数（平成27年度）も参考とし選定（地域との関わり方をみるため）。

※子ども会中学生会員数は、各中学校の学区に当たる町会・自治会の子ども会における人数（調査対象の学校・学級に在籍しているとは限らない）。

【高校】 川口総合高等学校／JRC部・生徒会所属生徒（計5人）

【講習会】 平成28年度第1回講習会受講者（計21人）  
※中学生3人・高校生以上（15～30歳）18人

◆実施方法・時期

- ・対象校（対象者）あて調査票（アンケート用紙）を配布、2週間以内に回収。  
平成28年4月20日～6月5日

◆調査項目（設問）

- ・埼玉県との比較をするため、「平成23年度埼玉青少年の意識と行動調査※」の調査項目「地域・地域活動について」にならった質問（各5問）を設定。

【中学生・講習会受講者（中学生）】

- ①地域への愛着度 ②近所の人へのあいさつ
- ③家族以外の人からしかられること ④地域活動等への参加状況
- ⑤参加してみたいボランティア活動

【高校生・講習会受講者（高校生以上）】

- ①地域への愛着度 ②近所の人へのあいさつ
- ③地域活動等への参加状況 ④参加経験のあるボランティア活動
- ⑤ボランティア活動に興味を持った理由

※「平成23年度埼玉青少年の意識と行動調査」について

- ・青少年の生活実態、価値観、満足度などを年齢段階ごとに調査し、現在の青少年の意識と行動の変化を把握するとともに、青少年行政の基本的かつ総合的な施策の樹立を図るための基礎資料とすることを目的に実施（5年に1回）。

【調査地域】 埼玉県全域

【調査対象】 ①満10～14歳の男女 ②満15～30歳の男女  
③調査対象①の保護者

【標本数】 3,600サンプル（①②③各1,200）

【抽出方法】 住民基本台帳を用いた無作為抽出

【調査項目】 「家庭や家族のことについて」「学校生活などについて」「悩みごとなどについて」「地域・地域活動について」等

※「平成28年度埼玉青少年の意識と行動調査」は、7月下旬から8月上旬にかけて実施予定。調査項目として、「携帯電話・スマートフォン、インターネット利用について」等が追加される予定。

## 2 調査結果と考察

### (1) 中学生

#### ◆ 10校集計結果（※別紙）

- ・問1（地域への愛着度）については、10校とも、地域が好きという回答（「1 好きである」「2 どちらかといえば好きである」）が多いが、次に多い回答は、「5 何とも思わない」（6.3～36.1%）であり、地域に対する無関心や関係性の希薄さがうかがえる。
- ・仲町中学校（横曽根地域）では、地域が好きとの回答は、10校中最も高い84.4%となっており、「何とも思わない」との回答は、10校中最も低い6.3%となっている。
- ・問2（近所の人へのあいさつ）に関しては、10校とも、日常的にあいさつをしている（「1 いつもしている」「2 ときどきしている」）との回答が多い。中学生の多くが、近所の人（大人）を認識し、自発的にコミュニケーションをとることができていることがわかる。
- ・問3（家族以外の人からしかられること）については、7校が「5 しかられない」、3校が「4 しかられたことがある」の割合が多くなっている。
- ・「6 その他」の記述回答については、「（家の外で）悪いことをしたことがない」等がほとんどであった（地域の大人との関係性以前の理由）。
- ・問4（地域活動等への参加状況）については、10校とも、「1 地域のお祭り」への参加が最も多く、次いで、「9 電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる」が多い結果となっている。地域のお祭りは、関わりが薄いとみられる中学生と地域との貴重な接点であり、活用すべき場であるともいえる。
- ・電車やバスで、困っている人に席をゆずるという行為ができる生徒が多いことから、多くの中学生に、道徳心や奉仕の精神が身に付いていることがうかがえる。
- ・問5（参加してみたいボランティア活動）については、5校が「2 環境・自然保護に関する活動」、4校が「3 スポーツ・文化に関する活動」の割合が多い。「4 青少年健全育成に関する活動」に関しては、ほとんどの学校で最も低い割合を示しているが、戸塚中学校（戸塚地域）のみ、11.1%と高い割合を示している。



◆埼玉県・青年ボランティア養成講習会受講者との比較

※表中略記 「県」：平成23年度埼玉県調査（中学生）  
「中」：中学校10校  
「講中」：青年ボランティア養成講習会受講者（中学生）

問1 あなたは、今あなたが住んでいる地域が好きですか。次の中から1つ選んで○をしてください。

項目	県 n=630	中 n=340		講中 n=3	
1 好きである	40.8%	108	31.8%	2	66.7%
2 どちらかといえば好きである	30.5%	115	33.8%	0	0.0%
3 あまり好きではない	7.0%	17	5.0%	0	0.0%
4 きらいである	2.2%	6	1.8%	0	0.0%
5 何とも思わない	12.7%	83	24.4%	1	33.3%
6 わからない	3.8%	11	3.2%	0	0.0%

・埼玉県（県）・中学校（中）・講習会（講中）とも、地域が好き（好き・どちらかといえば好き）という回答の割合が最も多く、次いで、「5 何とも思わない」が多い。「5」に関しては、中学校は、埼玉県より11.7ポイント高い結果となっている。

問2 あなたは、近所の人に自分からあいさつをしていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

項目	県 n=630	中 n=340		講中 n=3	
1 いつもしている	42.5%	130	38.2%	2	66.7%
2 ときどきしている	35.1%	126	37.1%	1	33.3%
3 あまりしていない	4.1%	10	2.9%	0	0.0%
4 あいさつされれば返事をしている	13.3%	62	18.2%	0	0.0%
5 していない	3.0%	12	3.5%	0	0.0%

・埼玉県・中学校・講習会とも、近所の人にあいさつをしているとの回答が多い。

問3 あなたは、家の中で悪いことをした時、家族以外の人からしかられることがありますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

項目	県 n=630	中 n=340		講中 n=3	
1 よくしかられる	8.3%	35	10.3%	1	33.3%
2 ときどきしかられる	15.9%	37	10.9%	1	33.3%
3 あまりしかられない	15.4%	56	16.5%	0	0.0%
4 しかられたことがある	21.3%	86	25.3%	0	0.0%
5 しかられない	30.5%	108	31.8%	0	0.0%
6 その他 ( )	5.6%	15	4.4%	1	33.3%
0 無回答	3.2%	3	0.9%	0	0.0%

・埼玉県・中学校とも、「5 しかられない」が最も多く、サンプル数の少ない講習会は、「1 よくしかられる」「2 ときどきしかられる」「6 その他」に分散。講習会の「6」（記述回答）は、「そもそもない（外で悪いことをしない）」。

問4 あなたは、最近1年間で、次のような活動に参加したり、行動をしたことがありますか。この中で、参加したり、行ったりしたことがあるものすべてに○をしてください。

項目	県 n=630	中 n=340		講中 n=3	
1 地域のお祭り	72.2%	263	77.4%	2	66.7%
2 地域のスポーツやレクリエーションの大会など	19.4%	54	15.9%	1	33.3%
3 地域の清掃や防災などの活動	15.9%	55	16.2%	1	33.3%
4 地域の声かけ・あいさつ運動	9.4%	23	6.8%	1	33.3%
5 公民館・青年の家などの講座や催し	3.0%	9	2.6%	0	0.0%
6 外国人との交流・国際交流に関する活動	4.8%	9	2.6%	0	0.0%
7 募金、献血	35.7%	61	17.9%	0	0.0%
8 地域の子どもたちの指導や世話	4.6%	26	7.6%	0	0.0%
9 電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる	24.8%	158	46.5%	0	0.0%
10 お年寄りや体の不自由な人のいる施設を訪問する	6.3%	29	8.5%	0	0.0%
11 その他 ( )	3.8%	1	0.3%	0	0.0%

・埼玉県・中学校・講習会とも、「1 地域のお祭り」への参加が最も多い。中学生で2番目に多い「9 電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる」という回答については、埼玉県より21.7ポイント高くなっている。

問5 あなたは、もし自分がボランティア活動をやるとした場合、どのような活動  
をしたいですか。最もやりたいと思うものを下の中から1つ選んで○をしてく  
ださい。

項 目	県 n=630	中 n=340		講中 n=3	
1 社会福祉に関する活動（高齢者や障害者などに対する介護、身のまわりの世話、給食サービスなど）	14.0%	45	13.2%	0	0.0%
2 環境・自然保護に関する活動（森林保護やリサイクル運動、地域での清掃活動など）	27.9%	86	25.3%	2	66.7%
3 スポーツ・文化に関する活動（スポーツ指導、スポーツ大会補助、文化財保護・管理、伝統行事の継承など）	26.2%	85	25.0%	0	0.0%
4 青少年健全育成に関する活動（ボーイスカウトやガールスカウトによる奉仕活動、子ども会活動、青少年相談員活動など）	1.0%	13	3.8%	0	0.0%
5 国際交流に関する活動（ホームステイ受入、通訳、難民援助、留学生援助など）	9.5%	32	9.4%	0	0.0%
6 その他（ ）	1.4%	5	1.5%	0	0.0%
7 わからない	16.5%	48	14.1%	0	0.0%
0 複数回答（無効）・無回答	3.5%	26	7.6%	1	33.3%

・埼玉県・中学校・講習会とも、「2 環境・自然保護に関する活動」への希望が最も多い。

・「6 その他」を選んだ中学生の記述回答（5人）は、「学習支援」「小さい子のお世話」「震災のボランティア」「保育関係」「演奏会」となっている。

## （2）高校生・高校生以上

### ◆埼玉県・青年ボランティア養成講習会受講者との比較

※表中略記 「県」：平成23年度埼玉県調査（高校生）  
「高」：川口総合高等学校（JRC部・生徒会所属生徒）  
「講高」：青年ボランティア養成講習会受講者（高校生以上）

問1 あなたは、今あなたが住んでいる地域が好きですか。次の中から1つ選んで○をしてください。

項目	県 n=142	高 n=5	講高 n=18
1 好きである	42.3%	1 20.0%	11 61.1%
2 どちらかといえば好きである	35.9%	1 20.0%	6 33.3%
3 あまり好きではない	2.8%	1 20.0%	0 0.0%
4 嫌いである	2.1%	1 20.0%	0 0.0%
5 何とも思わない	16.2%	1 20.0%	1 5.6%
6 わからない（※県「無回答」）	0.7%	0 0.0%	0 0.0%

・サンプル数の少ない高校（高）は回答が分散、埼玉県（県）・講習会（講高）は、地域が好きという回答が最も多い。

・「5 何とも思わない」の割合は、講習会では少なく（埼玉県より10.6ポイント低い）、地域に対する愛着度が高いことがわかる。

問2 あなたは、近所の人に自分からあいさつをしていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

項目	県 n=142	高 n=5	講高 n=18
1 いつもしている	31.0%	3 60.0%	6 33.3%
2 ときどきしている	40.8%	1 20.0%	7 38.9%
3 あまりしていない	8.5%	0 0.0%	1 5.6%
4 あいさつされれば返事をしている	16.2%	0 0.0%	4 22.2%
5 していない	2.8%	1 20.0%	0 0.0%

・埼玉県・高校・講習会とも、自分からあいさつをしているとの回答が多く、近所の人へのあいさつが、習慣として身に付いていることがうかがえる。

問3 あなたは、最近1年間で、次のような活動に参加したり、行動をしたことがありますか。次の中から、参加したり、行ったりしたことがあるものすべてに○をしてください。

項目	県 n=142	高 n=5	講高 n=18
1 地域のお祭り	56.3%	2 40.0%	9 50.0%
2 地域のスポーツやレクリエーションの大会など	9.2%	0 0.0%	7 38.9%
3 地域の清掃や防災などの活動	8.5%	1 20.0%	4 22.2%
4 地域の声かけ・あいさつ運動	1.4%	0 0.0%	1 5.6%

項目	県 n=142	高 n=5		講高 n=18	
5 公民館・青年の家などの講座や催し	1.4%	0	0.0%	4	22.2%
6 外国人との交流・国際交流に関する活動	4.2%	0	0.0%	2	11.1%
7 募金、献血	31.0%	<u>3</u>	<u>60.0%</u>	8	44.4%
8 地域の子どもたちの指導や世話	2.1%	0	0.0%	<u>10</u>	<u>55.6%</u>
9 電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる	31.0%	2	40.0%	<u>10</u>	<u>55.6%</u>
10 お年寄りや体の不自由な人のいる施設を訪問する	2.8%	0	0.0%	3	16.7%
11 その他 ( )	0.7%	0	0.0%	0	0.0%

・埼玉県については、「1 地域のお祭り」への参加が最も多いが、高校では「7 募金、献血」、講習会では「8 地域の子どもたちの指導や世話」「9 電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる」が最も多くなっている。

・中学生と比べ、地域のお祭りへの参加の割合が全体的に低くなっているのは、興味の対象の変化や多様化、行動範囲の拡大等によるものと推察できる。

問4 あなたが参加したことのあるボランティア活動は、どのような活動ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をしてください。

項目	県 n=76	高 n=3		講高 n=17	
1 社会福祉に関する活動（高齢者や障害者などに対する介護、身のまわりの世話、給食サービスなど）	35.5%	<u>1</u>	<u>33.3%</u>	5	29.4%
2 環境・自然保護に関する活動（森林保護やリサイクル運動、地域での清掃活動など）	<u>59.2%</u>	0	0.0%	5	29.4%
3 スポーツ・文化に関する活動（スポーツ指導、スポーツ大会補助、文化財保護・管理、伝統行事の継承など）	14.5%	0	0.0%	3	17.6%
4 青少年健全育成に関する活動（ボーイスカウトやガールスカウトによる奉仕活動、子ども会活動、青少年相談員活動など）	15.8%	0	0.0%	<u>14</u>	<u>82.4%</u>
5 国際交流に関する活動（ホームステイ受入、通訳、難民援助、留学生援助など）	2.6%	<u>1</u>	<u>33.3%</u>	1	5.9%
6 その他 ( )	5.3%	1	<u>33.3%</u>	0	0.0%
7 ボランティア活動はやったことがない	39.4%	2	40.0%	1	5.6%
	※n=142		※n=5		※n=18

・埼玉県と高校では、全体の約半数が、ボランティア活動未経験と答えている。

・経験したボランティア活動については、埼玉県では「2 環境・自然保護に関する活動」が最も多く、高校では「1 社会福祉に関する活動」「5 国際交流に関する活動」「6 その他」が各1人となっている（「その他」は被災地ボランティア）。

・講習会では、青年ボランティア養成講習会の内容である「5 青少年健全育成に関する活動」が最も多い結果となった。

問5 あなたはボランティア活動に興味がありますか。興味がある人はどのような気持ちからですか。次の中からあてはまるものすべてに○をしてください。

項目	県 n=142	高 n=5		講高 n=18	
1 困っている人の手助けをしたい	40.1%	3	60.0%	6	33.3%
2 いろいろな人と出会いたい	21.1%	3	60.0%	9	50.0%
3 新しい技術や能力を身に付けたい	19.7%	2	40.0%	12	66.7%
4 地域や社会をよりよくしたい	14.8%	2	40.0%	4	22.2%
5 自分のやりたいことを発見したい	15.5%	3	60.0%	5	27.8%
6 進学・就職などで有利にしたい	11.3%	2	40.0%	8	44.4%
7 自由時間を有効に使いたい	9.2%	3	60.0%	3	16.7%
8 周りの人がやっているから	2.1%	0	0.0%	1	5.6%
9 やったことがないので、経験したい	14.1%	0	0.0%	4	22.2%
10 その他（ ）	1.4%	0	0.0%	2	11.1%
11 興味がない	26.8%	1	20.0%	0	0.0%

・埼玉県では「1 困っている人の手助けをしたい」という、奉仕の精神からボランティア活動に興味を持つ者が多いという結果となっている。

・高校では、「1」の他、「2 いろいろな人と出会いたい」「3 自分のやりたいことを発見したい」「7 自由時間を有効に使いたい」に同数の回答があり、講習会については、最も多い回答が「3 新しい技術や能力を身に付けたい」、次いで、「2 いろいろな人と出会いたい」となっている。埼玉県と比べ、自分自身の成長のためにボランティア活動を行いたいという心情的な傾向があることがうかがえる。

議題(3) 別紙

◆中学生(10校集計結果)

(単位:人)

	南 n=33	仲町 n=32	上青木 n=36	元郷 n=34	東 n=38	神根 n=32	芝西 n=32	安行東 n=35	戸塚 n=36	里 n=32	計 n=340
問1 あなたは、今あなたが住んでいる地域が好きですか。次の中から1つ選んで○をしてください。											
1 好きである	9; 27.3%	16; 50.0%	8; 22.2%	15; 44.1%	10; 26.3%	5; 15.6%	8; 25.0%	11; 31.4%	16; 44.4%	10; 31.3%	108; 31.8%
2 どちらかといえば好きである	15; 45.5%	11; 34.4%	11; 30.6%	9; 26.5%	8; 21.1%	17; 53.1%	14; 43.8%	13; 37.1%	9; 25.0%	8; 25.0%	115; 33.8%
3 あまり好きではない	0; 0.0%	1; 3.1%	3; 8.3%	1; 2.9%	4; 10.5%	1; 3.1%	3; 9.4%	3; 8.6%	0; 0.0%	1; 3.1%	17; 5.0%
4 くらいである	1; 3.0%	1; 3.1%	0; 0.0%	0; 0.0%	3; 7.9%	1; 3.1%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	6; 1.8%
5 何とも思わない	7; 21.2%	2; 6.3%	13; 36.1%	8; 23.5%	10; 26.3%	8; 25.0%	7; 21.9%	8; 22.9%	10; 27.8%	10; 31.3%	83; 24.4%
6 わからない	1; 3.0%	1; 3.1%	1; 2.8%	1; 2.9%	3; 7.9%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 2.8%	3; 9.4%	11; 3.2%
問2 あなたは、近所の人に自分からあいさつをしていますか。次の中から1つ選んで○をしてください。											
1 いつもしている	7; 21.2%	16; 50.0%	15; 41.7%	11; 32.4%	9; 23.7%	10; 31.3%	17; 53.1%	13; 37.1%	13; 36.1%	19; 59.4%	130; 38.2%
2 ときどきしている	16; 48.5%	9; 28.1%	13; 36.1%	15; 44.1%	18; 47.4%	12; 37.5%	9; 28.1%	13; 37.1%	17; 47.2%	4; 12.5%	126; 37.1%
3 あまりしていない	2; 6.1%	1; 3.1%	1; 2.8%	0; 0.0%	2; 5.3%	2; 6.3%	0; 0.0%	1; 2.9%	1; 2.8%	0; 0.0%	10; 2.9%
4 あいさつされれば返事している	6; 18.2%	6; 18.8%	5; 13.9%	7; 20.6%	8; 21.1%	7; 21.9%	5; 15.6%	6; 17.1%	4; 11.1%	8; 25.0%	62; 18.2%
5 していない	2; 6.1%	0; 0.0%	2; 5.6%	1; 2.9%	1; 2.6%	1; 3.1%	1; 3.1%	2; 5.7%	1; 2.8%	1; 3.1%	12; 3.5%
問3 あなたは、家の外で悪いことをした時、家族以外の人からしかられることがありますか。次の中から1つ選んで○をしてください。											
1 よくしかられる	2; 6.1%	5; 15.6%	4; 11.1%	4; 11.8%	0; 0.0%	7; 21.9%	2; 6.3%	3; 8.6%	4; 11.1%	4; 12.5%	35; 10.3%
2 ときどきしかられる	4; 12.1%	2; 6.3%	1; 2.8%	7; 20.6%	3; 7.9%	4; 12.5%	0; 0.0%	4; 11.4%	5; 13.9%	7; 21.9%	37; 10.9%
3 あまりしかられない	4; 12.1%	3; 9.4%	5; 13.9%	6; 17.6%	5; 13.2%	4; 12.5%	8; 25.0%	8; 22.9%	5; 13.9%	8; 25.0%	56; 16.5%
4 しかられたことがある	13; 39.4%	7; 21.9%	8; 22.2%	10; 29.4%	13; 34.2%	6; 18.8%	6; 18.8%	9; 25.7%	11; 30.6%	3; 9.4%	86; 25.3%
5 しかられない	8; 24.2%	11; 34.4%	17; 47.2%	5; 14.7%	17; 44.7%	10; 31.3%	11; 34.4%	11; 31.4%	10; 27.8%	8; 25.0%	108; 31.8%
6 その他( )	1; 3.0%	3; 9.4%	1; 2.8%	1; 2.9%	0; 0.0%	1; 3.1%	5; 15.6%	0; 0.0%	1; 2.8%	2; 6.3%	15; 4.4%
0 無回答	1; 3.0%	1; 3.1%	0; 0.0%	1; 2.9%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	3; 0.9%
問4 あなたは、最近1年間で、次のような活動に参加したり、行動をしたことがありますか。この中で、参加したり、行ったりしたことがあるものすべてに○をしてください。											
1 地域のお祭り	25; 75.8%	26; 81.3%	32; 88.9%	24; 70.6%	32; 84.2%	27; 84.4%	28; 87.5%	24; 68.6%	27; 75.0%	18; 56.3%	263; 77.4%
2 地域のスポーツやレクリエーションの大会など	7; 21.2%	7; 21.9%	9; 25.0%	5; 14.7%	3; 7.9%	2; 6.3%	8; 25.0%	6; 17.1%	5; 13.9%	2; 6.3%	54; 15.9%
3 地域の清掃や防災などの活動	7; 21.2%	9; 28.1%	7; 19.4%	5; 14.7%	3; 7.9%	1; 3.1%	8; 25.0%	5; 14.3%	2; 5.6%	8; 25.0%	55; 16.2%
4 地域の声かけ・あいさつ運動	1; 3.0%	2; 6.3%	1; 2.8%	7; 20.6%	2; 5.3%	0; 0.0%	4; 12.5%	3; 8.6%	2; 5.6%	1; 3.1%	23; 6.8%
5 公民館・青年の家などの講座や催し	0; 0.0%	0; 0.0%	2; 5.6%	2; 5.9%	0; 0.0%	1; 3.1%	3; 9.4%	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 3.1%	9; 2.6%
6 外国人との交流・国際交流に関する活動	1; 3.0%	4; 12.5%	1; 2.8%	1; 2.9%	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 3.1%	1; 2.9%	0; 0.0%	0; 0.0%	9; 2.6%
7 募金、献血	6; 18.2%	4; 12.5%	6; 16.7%	3; 8.8%	5; 13.2%	6; 18.8%	13; 40.6%	7; 20.0%	8; 22.2%	3; 9.4%	61; 17.9%
8 地域の子どものための指導や世話	5; 15.2%	3; 9.4%	1; 2.8%	2; 5.9%	3; 7.9%	1; 3.1%	3; 9.4%	5; 14.3%	1; 2.8%	2; 6.3%	26; 7.6%
9 電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる	12; 36.4%	17; 53.1%	14; 38.9%	17; 50.0%	19; 50.0%	14; 43.8%	23; 71.9%	13; 37.1%	20; 55.6%	9; 28.1%	158; 46.5%
10 お年寄りや体の不自由な人のいる施設を訪問する	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 2.8%	1; 2.9%	3; 7.9%	4; 12.5%	1; 3.1%	2; 5.7%	14; 38.9%	3; 9.4%	29; 8.5%
11 その他( )	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 2.6%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 0.3%
問5 あなたは、もし自分がボランティア活動をやるとした場合、どのような活動をしたいですか。最もやりたいと思うものを下の中から1つ選んで○をしてください。											
1 社会福祉に関する活動(高齢者や障害者などに対する介護、身のまわりの世話、給食サービスなど)	8; 24.2%	7; 21.9%	5; 13.9%	5; 14.7%	4; 10.5%	5; 15.6%	3; 9.4%	2; 5.7%	3; 8.3%	3; 9.4%	45; 13.2%
2 環境・自然保護に関する活動(森林保護やリサイクル運動、地域での清掃活動など)	5; 15.2%	10; 31.3%	13; 36.1%	9; 26.5%	8; 21.1%	5; 15.6%	6; 18.8%	13; 37.1%	8; 22.2%	9; 28.1%	86; 25.3%
3 スポーツ・文化に関する活動(スポーツ指導、スポーツ大会補助、文化財保護・管理、伝統行事の継承など)	6; 18.2%	5; 15.6%	7; 19.4%	4; 11.8%	13; 34.2%	10; 31.3%	13; 40.6%	12; 34.3%	10; 27.8%	5; 15.6%	85; 25.0%
4 青少年健全育成に関する活動(ボーイスカウトやガールスカウトによる奉仕活動、子ども会活動、青少年相談員活動など)	3; 9.1%	2; 6.3%	1; 2.8%	1; 2.9%	1; 2.6%	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 2.9%	4; 11.1%	0; 0.0%	13; 3.8%
5 国際交流に関する活動(ホームステイ受入、通訳、難民援助、留学生生援助など)	5; 15.2%	2; 6.3%	1; 2.8%	5; 14.7%	3; 7.9%	3; 9.4%	3; 9.4%	3; 8.6%	5; 13.9%	2; 6.3%	32; 9.4%
6 その他( )	1; 3.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 2.6%	0; 0.0%	2; 6.3%	0; 0.0%	1; 2.8%	0; 0.0%	5; 1.5%
7 わからない	2; 6.1%	2; 6.3%	7; 19.4%	6; 17.6%	5; 13.2%	7; 21.9%	3; 9.4%	3; 8.6%	4; 11.1%	9; 28.1%	48; 14.1%
0 複数回答(無効)・無回答	3; 9.1%	4; 12.5%	2; 5.6%	4; 11.8%	3; 7.9%	2; 6.3%	2; 6.3%	1; 2.9%	1; 2.8%	4; 12.5%	26; 7.6%

発行日：平成29年5月

発行者：川口市青少年問題協議会

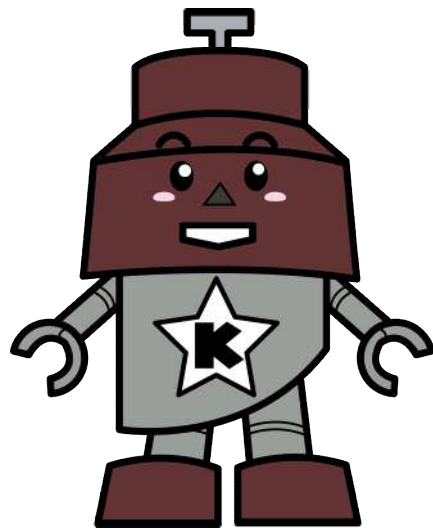
編集：川口市子ども部青少年対策室

〒332-8601 川口市青木2-1-1

TEL:048-258-1115（直通）







大人が変われば

子どもも変わる